

～フットパスを通して宮若市の自然を守る～

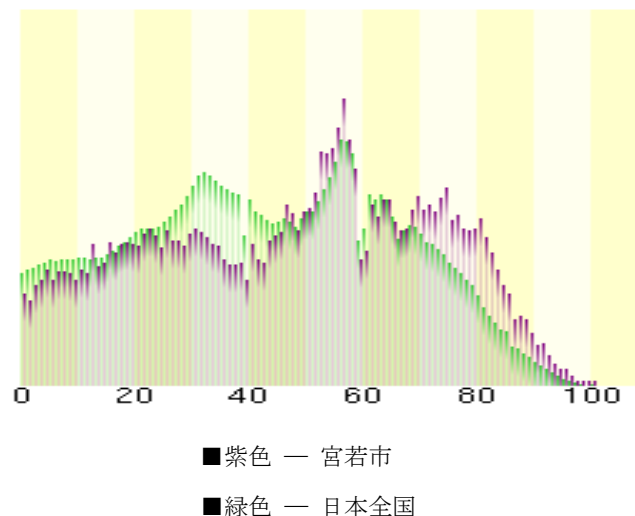
フットパス 4A 班

4 組	7 番	小林拓未
	10 番	関岡翔太
	11 番	千手拓哉
	24 番	大神菜々恵
	26 番	桑原淑衣
	30 番	田中美智子

1. 現状

宮若市は福岡市から北東へ約 35 km、北九州市から南西へ約 35 km の福岡県筑豊地区北部に位置しており、直方市や宗像市、飯塚市などに隣接している。また宗像市とは歴史的に古代から結び付きが強い都市である。現在の人口はおよそ 28000 人で面積は約 140 km<sup>2</sup> であり、高齢化率は 33% である。つまり 3 人に 1 人が 65 歳以上であることがわかり、とても高齢化が進んでいるとわかる。

宮若市と全国の年齢別人口分布（2005 年）



主な産業は、まず明治時代に石炭の採掘が始まり、旧宮田町にあった筑豊最大の炭鉱、貝島炭鉱をはじめとする多くの炭鉱が開発され、宮若市は炭鉱都市として発展した。しかし、昭和 30 年代から始まったエネルギー革命の影響を受け、1976 年までにすべての炭鉱が閉山した。炭鉱閉山後は、九州自動車道若宮インター近くに工業団地を造成し、新たな産業誘致に取り組んでいる。1992 年にはトヨタ自動車九州が生産を開始し、自動車関連企業の進出が続いている。このため、市内にはトヨタ自動車九州や自動車関連企業の工場が数多く立地している。製造品出荷額（2014 年度）は約 7880 億円で、北九州工業地帯でも有数の工業都市である。そのため、2014 年度（平成 26 年度）の財政力指数は 0.56 と筑豊地方の自治体では最も高くなっている。

特産品は「追い出し猫伝説」にちなんだ追い出し猫や、米焼酎、若宮味噌、トルコ桔梗などがある。



また、装飾古墳として有名な国家指定文化財である竹原古墳や、旧校舎を活かして貝島炭坑の歴史を紹介している石炭記念館などの伝統的な史跡や寺社、祠などがある。

西山や権現山、磯辺山、今回のフットパスコースである千石峡などの美しく、豊かな自然が多く現存しており、市を代表する木として桜が、花として彼岸花が挙げられる。

実際に、フィールドワークで宮若市内を歩いてみると、きれいな川や自然、風景があり、たくさんの植物や生き物が住む自然豊かな場所であった。また、街の人は明るく、気さくに話しかけてくださった。しかし、道端や川のちょっとしたところにペットボトルやビニール袋、お菓子のゴミなどが捨てられており、川辺にはバーベキューセットや生ゴミが片付けられないまま放置されていた。また、山の中や木々が生い茂っているところに、冷蔵庫や大量の土管などの粗大ゴミが不法投棄されているなど宮若市の美しい景観を損なっているところも少なくはなかった。

## 2, 背景

上記の課題について、まず、ゴミのポイ捨ての原因は、宮若市のゴミ袋の値段がほかの地区に比べてかなり高いということ。次に粗大ゴミが不法投棄される原因は、処理をするのに多大なお金がかかってしまうためゴミ処理場に粗大ゴミを持っていけないということ。そしてどちらにも共通するのは、周囲を木々に囲まれていて、人目につかない場所が多いということである。

### ○ゴミ袋の値段比較○

宮若市	大… 840円 / 10枚 小… 680円 / 10枚 ※平成30年から大は740円、小は582円に変更
直方市	大… 648円 / 10枚 小… 324円 / 10枚
福岡市	大… 450円 / 10枚 小… 150円 / 10枚

上の表は宮若市と直方市、福岡市の10枚入りのゴミ袋の値段を大きいサイズと小さいサイズに分けて比較してみたものである。宮若市では大サイズが10枚で840円、小サ

イズが10枚で682円なのに対し、直方市では大サイズが10枚で648円、小サイズが10枚で324円である。また福岡市では大サイズが10枚で450円、小サイズが10枚で150円となっていて、宮若市のゴミ袋の値段は他の市と比べて約1.5倍以上とかなり高いことが分かる。なお、宮若市のゴミ袋の値段は平成30年4月1日から下げられ、大サイズが10枚で740円、小サイズが10枚で582円に変更されることが発表されている。しかし、それでも、ほかの地域と比べると、まだかなり高いということがわかる。

また、他にも、各家庭から出る生ごみをピートモスと呼ばれるコケ等の基材とともに段ボール箱に入れ、その中で減量・堆肥化を行い、肥料として使用するダンボールコンポストが行われていることや、事前申し込みをすればゴミ処理場に粗大ゴミを直接搬入することもできるなどゴミに対する解決策がとられている。

### 3. 提案

私たちはこれらの3つの原因からピックアップして、フットパスによって改善されるものはないか考えた。すると、2つのことの共通の原因である、木々に囲まれていて人目につかない場所が多いために、ゴミのポイ捨てをしたり、粗大ゴミを放棄している人なら、減らせるのではないかという結論に至った。では、フットパスによってどのように木々に囲まれていて人目につかない場所が多いために、ゴミのポイ捨てしたり、粗大ゴミを放棄している人を減らすことが出来るのだろうか。

それは、フットパスコースを歩いた地元の人たちに、宮若市の自然を楽しんでもらうと同時に、宮若市の自然の美しさを知ってもらいゴミのポイ捨てに対する認識を変えてもらうという方法である。この方法によって私たちの班は少しずつではあるが、ポイ捨てをしないう、また、させない街の雰囲気作りに繋げられると思った。また、このフットパスコースを歩いた人が、コースでとった宮若市の美しい自然の写真や、千石地区のゴミのポイ捨て、不法投棄の写真などをSNSなどに投稿すれば、多くの人が目にする事ができ、千石地区の自然の豊かさや美しさ、ゴミのポイ捨てや不法投棄の現状などの情報の拡散が期待できる。今回私たちが、フットパスのコースとして千石地区を選んだのは、宮若市の中でも特に自然が豊かで美しく、宮若市の代表的な木、花である、桜や彼岸花を見ることが出来るためである。宮若市を流れる川の1つである八木山川も流れていて、春夏秋冬どの季節でも美しい風景を見ることができ、自然の豊かさや美しさを味わうことが出来るためである。また、実際に宮若市に住んでいる私たちの班員も知らない景色や場所があったため、宮若市に住んでいる人も、普段から見慣れた景色だという人でも楽しめ、宮若市の自然の魅力を再認識することができ、新たな多くの発見があると思う。

上記の事より私達2年4組A班は宮若市の千石地区の自然の豊かさや、景観の美しさを十分に味わうことができるフットパスコースを提案する。

#### 4, 詳細

このフットパスのコースは、スタート地点をセブンイレブン脇野店として、千石公園、いこいの里「千石」を経由して、ゴール地点を力丸ダムとしたコースである。コースの所要時間は1時間30分から2時間ほどであり、距離はおおよそ6.7kmである。また、このコースは、千石峡を流れる八木山川沿いの小道を歩くコースになっていて、周囲を木々に囲まれているので、夏はとても涼しく、春には数百本の桜やツツジが咲き誇る。また秋には紅葉した木々が見られ、冬は少し肌寒いがとても歩きやすく、どの季節でもおすすめのコースである。途中で通る千石公園やいこいの里「千石」では実際に川の水に触れることが出来たり、川で泳いでいる魚を捕まえることが出来る場所もある。またコース沿いにはいくつかの祠も見られ、力丸ダム周辺では壮大な景色が見られる。実際に私たちの班はこのフットパスコースを歩いてみて、木々に囲まれた中を歩いたため夏でもとても涼しく、川の流れる音が心を落ち着かせ、とても良い道だった。このフットパスコースを歩く上で準備しておくとして水分や塩分、帽子、タオル、救急セット、虫除けスプレー、リュック、カメラ、地図などが挙げられ、コースを歩く際の格好は履きなれた靴に動きやすい服が好ましい。

#### 5, 未解決問題

しかし、このコースを歩く上での未解決である問題もある。1つ目は、このコースを歩く人たちが、このコースを歩く人たちがゴミのポイ捨てに対する認識を変えるためにも作られたということを十分に理解せずに歩いた場合に、ゴミのポイ捨てが減らない、またはより増えてしまう恐れがあること。もう一つはこのコースを歩くことによって、ゴミの不法投棄、またはポイ捨てが起きる原因を全て解決できるわけではないということである。しかし、コースを歩くことによって千石地区のゴミのポイ捨ての現状を知ることが出来、そのような小さなことが、千石地区の景観をきれいにすることにつながるのではないだろうか。私たちの班は宮若市から少しでもゴミのポイ捨てや粗大ゴミの不法投棄がなくなるように、これからも出来ることを少しずつやっっていこうと思う。

#### 6, 実施スケジュール

##### ①第一回フィールドワーク【9月10日】[現地調査及びコースの選定]

第一回目のフィールドワークでは実際に私たちのフットパスコースをあるいてみると、同時に千石地区の周辺の散策も行った。このコースを歩いてみると、気温が高かったにも関わらず、日陰が多く八木山川沿いに歩いて行ったため、とても涼しく夏場でも歩きやすいコースだった。このコースは一つの道だけでなく様々な小道が至る所にあつたため、まさにフットパスにふさわしいと思われる。また、このコースを歩くうえで、千石地区の方々にインタビューさせて頂いたところ、オオスズメバチやアカゴケグモといった毒を持つ生物も見られたためコースを歩く際には十分な注意が必要

であるということがわかった。

## ②第二回フィールドワーク[現地調査及びコースの最終決定]

第二回目のフィールドワークでは第一回目と同様に、実際に私達でフットパスコースを歩き、現地調査を行った。また、第二回目のフィールドワークでフットパスコースのルートを最終決定した。第一回目のフィールドワークと異なって冬に歩いたため、少し寒かったため、冬にこのコースを歩く際は上着などがあると好ましい。また冬でもやはり千石地区の景観は美しかった。